Catalyst 1200および1300スイッチの一般的なCLIコマンドの概要

目的

この記事の目的は、Catalyst 1200または1300スイッチのコマンドラインインターフェイス(CLI)で一般的に使用される機能を説明することです。

適用可能なデバイス | ソフトウェアバージョン

- Catalyst 1200(データシート)
- Catalyst 1300(データシート)

はじめに

スイッチは、コマンドラインインターフェイス(CLI)を使用してアクセスおよび設定できます。CLIにアクセスすると、端末ベースのウィンドウにコマンドを入力できます。端末コマンドの使用経験が豊富なユーザは、Web設定ユーティリティを使用するよりも簡単に操作できます。

PuTTYなどの標準SSHクライアントを使用して、スイッチのCLIにアクセスできます。PuTTY経由でCLIにアクセスする方法の詳細については、ここをクリックしてください
。

目次

- 一般的なCLIコマンド
- Smartportコマンド
- 固定IPアドレスの割り当て
- VLAN の設定

一般的なCLIコマンド

手順 1

ユーザ名とパスワードを使用してスイッチにログインします。

```
cisco
```

手順 2

スイッチのホスト名は、コマンドプロンプトの1行目に表示されます。これを変更するには、configureと入力してグローバルコンフィギュレーションモードに入ります。

```
configure
```

手順 3

スイッチに割り当てるホスト名と名前を入力します。この例では、Switch3です。

```
hostname Switch3
```

手順 4

グローバルコンフィギュレーションモードを終了するには、exitまたはendと入力します。

```
end
```

手順 5

これを確認するには、show systemと入力します。システム名が変更されます。

```
show system
```

手順 6

管理者としてスイッチにログインできるユーザを作成するには、グローバルコンフィギュレーションモードに入ります。

```
configure
```

ステップ7

usernameコマンドを入力し、続けて作成するユーザの名前を入力します。この例では、Timです。passwordコマンドの後に使用するパスワードを入力します。

```
username Tim password Enter123
```

手順 8

パスワードを暗号化するかどうかを選択できます。キーボードのスペースバーを押し

、疑問符を追加して使用可能なコマンドを表示します。この例では、sha-512がパスワードの暗号化として使用されます。

```
username Tim password Enter123 method sha512
```

手順 9

ユーザを管理者として割り当てるには、読み取り権限と書き込み権限の両方が必要です。キーボードでprivilegeと入力し、続けて制御疑問符を入力します。

```
username Tim password Enter123 method sha512 privilege
```

- 特権レベル1：読み取り専用CLIアクセス：ユーザはGUIにアクセスできず、デバイス設定を変更しないCLIコマンドにのみアクセスできます。
- 特権レベル7：読み取り/制限付き書き込みCLIアクセス：ユーザはGUIにアクセスできず、デバイス設定を変更する一部のCLIコマンドにしかアクセスできません。
- 権限レベル15：読み取り/書き込み管理アクセス：ユーザはGUIにアクセスしてデバイスを設定できます。

この例では、15が選択されています。

```
username Tim password Enter123 method sha512 privilege 15
```

手順 10

exitと入力して、スイッチからログアウトします。

```
exit
```

```
exit
```

手順 11

新しく作成したユーザでスイッチに再度ログインします。

```
Tim
```

```
********
```

手順 12

show users コマンドを入力して、ユーザ名、プロトコル、ロケーション、およびセッション時間に関する情報を表示します。

```
show users
```

手順 13

show running configurationコマンドは、スイッチに関して必要になる可能性がある情報の多くを提供します。

```
show running-config
```

Smartportコマンド

ほとんどのスイッチにはスマートポートがあり、スイッチはポートに物理的に接続されているポートを判別できます。また、設定されているマクロに基づいて、ポートを自動的に設定します。自動設定の動作の詳細を知らない場合は、自動設定が望ましくない場合があります。このような場合は、スマートポートを無効にすることができます。

手順 1

グローバル設定モードに移行します。

```
configure
```

手順 2

macro auto disabledと入力します。

```
macro auto disabled
```

手順 3

オンに戻すには、macro auto enabledコマンドを実行します。

```
macro auto enabled
```

手順 4

スイッチをデフォルト設定にするには、no macro autoと入力します。

```
no macro auto
```

固定IPアドレスの割り当て

手順 1

グローバルコンフィギュレーションモードに入り、interface VLAN1と入力します。

```
interface vlan 1
```

手順 2

IPアドレスとサブネットマスクを入力します。

```
ip address 172.19.76.4 255.255.255.0
```

手順 3

設定を確認するには、do show runコマンドを入力します。

```
do show run
```

VLAN の設定

手順 1

グローバルコンフィギュレーションモードで、設定するVLAN番号を入力します。この例では、VLAN 20です。

```
vlan 20
```

手順 2

VLANを作成するには、interface VLAN number コマンドを使用します。このインターフェイスは直接設定できます。

```
interface vlan 30
```

手順 3

do show vlanと入力して、作成したVLANを確認します。

```
do show vlan
```

手順 4

VLANに名前を追加するには、nameと入力してから、VLANにコールする名前を入力します。この例ではDATAです。

```
name DATA
```

> **Note:**
> よく使用するコマンドや頻繁に使用するコマンドを検索するには、上矢印キーと下矢印キーを使用して、以前に入力したコマンドを順に切り替えます。

手順 5

インターフェイスをアクセスポートとして設定するには、インターフェイスを入力します。この例では、ポート10のg1/0/10です。

```
interface g1/0/10
```

手順 6

switchport mode accessと入力して、アクセスポートを作成します。

```
switchport mode access
```

ステップ7

これをVLANに割り当てるには、switchport accessに続けてVLAN番号を入力します。この例では、VLAN 20に割り当てられています。

```
switchboard access vlan 20
```

手順 8

トランクポートを作成するには、interface numberを入力します。この例では、g1/0/12です。

```
interface g1/0/12
```

手順 9

switch port mode trunkコマンドを入力します。

```
switch port mode trunk
```

手順 10

VLANを割り当てるには、switchport trunkコマンドをVLAN IDとともに入力します。この例では、VLAN 1、20、および30が含まれています。

```
switchport trunk allowed vlan 1, 20, 30
```

手順 11

トランクのタグなしVLANであるネイティブVLANを追加するには、switchport trunk nativeと入力し、続けてVLAN IDを入力します。この例では、VLAN 1が使用されています。

```
switchport trunk native vlan 1
```

手順 12

設定を保存するには、exitと入力してEnterキーを2回押します。

```
exit
```

手順 13

copy running configuration startup configurationコマンドを入力します。

```
copy running-config startup-config
```

手順 14

確認のため、Yと入力します。

```
Y
```

結論

これで、Catalyst 1200または1300スイッチを管理するために一般的に使用されるCLIコマンドについて、すべて理解できました。

Catalyst 1200および1300スイッチの詳細については、次のページを参照してください。

- Cisco Catalyst 1200または1300シリーズスイッチにアップグレードする理由の機能比較
- Cisco Catalyst 1200および1300シリーズスイッチAt-a-Glance

その他の設定と機能については、『Catalystシリーズアドミニストレーションガイド』を参照してください。

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。